
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO **iDWR**

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2007年第51週
(12月17日～12月23日)

- | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">* 2007年12月26日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
http://survey.tokyo-eiken.go.jp/* 今週は感染症豆知識「超多剤耐性結核」も掲載しています。 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

2007年12月27日発行

編集・発行

東京都医師会感染症予防検討委員会
東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 患者報告数 2007年51週

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		48週	49週	50週	51週	年累計	51週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ベスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	74	67	63	71	2914	299	19331
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *							
三類	コレラ					2		12
	細菌性赤痢	2	4		2	85	5	445
	腸管出血性大腸菌感染症	9	4	2	2	474	15	4566
	腸チフス					11		47
	パラチフス	1				7		20
四類	E型肝炎					3		53
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1	1		19		151
	エキノкокクス症					3		16
	黄熱							
	オウム病					1		30
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱					1		7
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					2		3
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病	4	3	1	1	13	15	328
	デング熱		1			23		87
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ #							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						4	93
	日本脳炎						1	10
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							3
	マラリア				1	23	1	51
	野兔病							
ライム病					3		11	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	1	1	1		53	10	643	
レプトスピラ症					3		32	
ロッキー山紅斑熱								

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		48週	49週	50週	51週	年累計	51週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	3	2	2		162	6	763
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)		3		1	40	3	228
	急性脳炎 **			1		19		213
	クリプトスポリジウム症					1		6
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2				15	2	143
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					6	1	94
	後天性免疫不全症候群	8	16	11	14	510	12	1425
	ジアルジア症		1	1		17	1	53
	髄膜炎菌性髄膜炎					3		16
	先天性風しん症候群							
	梅毒	2	5	4	1	158	5	698
	破傷風					1		87
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1		2		17	1	79	
指定	インフルエンザ (H5N1)							
2007/12/26集計								

* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

** ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

2007年14週集計分より「高病原性鳥インフルエンザ」から「鳥インフルエンザ」に変更

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 71件

肺結核53件、その他18件で、推定感染地は国内55件、国内/韓国1件、不明15件であった。年齢は10歳未満4件(うち5歳未満3件)、20歳代13件、30歳代8件、40歳代8件、50歳代6件、60歳代8件、70歳代13件、80歳代8件、90歳代2件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 2件

ソンネ1件、ボイド1件で、推定感染地はインドネシア1件、インド1件、推定感染経路はいずれも飲食物による経口感染であった(1件はカットフルーツとの関連が疑われており、1件は詳細不明)。

腸管出血性大腸菌感染症 2件

患者、無症状病原体保有者が各1件で、血清型・毒素型は、O157(VT1・VT2)、O26(VT1)が各1件であった。年齢は10歳未満と30歳代であった。

〈四類感染症〉

つつが虫病 1件

推定感染地は千葉県であった。49週報告の患者と同行していた。

マラリア 1件

熱帯熱マラリアで、カメルーンからの来訪中に診断された。

〈五類感染症〉

ウイルス性肝炎 1件

B型で、異性間性的接触による感染が疑われている。

後天性免疫不全症候群 14件

無症候キャリア10件、AIDS 1件、その他3件であった。推定感染地は国内12件、カンボジア1件、国内/フィリピン/タイ1件で、推定感染経路は性的接触12件(同性間10件、異性間1件、両性間1件)、不明2件であった。

梅毒 1件

早期顕症梅毒Ⅱ期で、感染地は不明、感染経路は同性間性的接触が疑われている。

五類定点把握対象疾患 患者報告数 2007年51週

疾病名	2007年				4週合計	年累計
	48週	49週	50週	51週		
RSウイルス感染症	85	102	115	119	421	1,313
インフルエンザ	651	1,362	2,052	2,511	6,576	51,682
咽頭結膜熱	28	57	47	47	179	2,754
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	364	280	279	333	1,256	11,718
感染性胃腸炎	2,070	2,755	3,110	3,137	11,072	44,719
水痘	206	200	267	245	918	8,600
手足口病	45	31	35	29	140	4,356
伝染性紅斑	21	32	37	34	124	2,854
突発性発しん	87	83	95	71	336	4,627
百日咳	3	6	4	7	20	149
風しん	1	0	0	0	1	34
ヘルパンギーナ	12	16	13	10	51	6,802
麻しん(成人麻しんを除く)	1	0	0	0	1	302
流行性耳下腺炎	29	30	22	39	120	1,907
不明発しん症	7	12	16	9	44	658
MCLS	1	0	4	2	7	109
急性出血性結膜炎	3	2	1	1	7	80
流行性角結膜炎	10	26	14	25	75	949
細菌性髄膜炎	1	2	2	0	5	33
無菌性髄膜炎	0	0	1	0	1	51
マイコプラズマ肺炎	13	10	13	8	44	232
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	2	0	2	21
成人麻しん	0	0	2	1	3	261
2007/12/26集計						

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・RSウイルス感染症の定点当たり報告数はさらに増加したが、増加の程度がやや鈍っている。
- ・インフルエンザの定点当たり報告数はさらに増加し、1999/2000年シーズン以降の同時期と比較して最も多い状況が続いているが、トレンドの傾きを過去5年と比べると、それほど急ではない。
- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は微増にとどまっており、今シーズンの流行ピークにさしかかっている可能性がある。
- ・百日咳の定点当たり報告数が増加した。依然高いレベルで推移しているといえ、引き続き注意が必要である。

(定点医療機関からのコメント)

中野区保健所管内定点医療機関

- ・不明発疹症の3歳女児は、インフルエンザワクチン接種(2回目)の翌日に発熱。解熱後、全身に多型性紅斑が出現しましたが、一般状態は良好です。
- ・5歳男児。咽頭炎と高熱にて来院。迅速検査で溶連菌感染とインフルエンザA型が陽性に出て混合感染を強く疑わせました。

* インフルエンザに関するコメントは16、17頁にまとめて記載しました。

五類定点把握対象疾患 患者報告数【年齢階級別】 2007年51週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん
～5か月	18	12			19	6			2
～11か月	24	22	5	2	135	12	2	1	30
1歳	43	62	7	8	416	47	7	1	31
2歳	12	80	2	12	312	41	6	4	7
3歳	13	121	8	21	231	39	2	4	
4歳	3	191	9	35	276	36	2	6	
5歳	1	208	4	46	244	27	4	6	
6歳	1	238	5	41	192	12	2	2	1
7歳	1	232	2	53	163	12	1	3	
8歳		171	3	21	146	4	1	1	
9歳	1	197		28	129	5		4	
10～14歳		309	1	34	272	4	2	2	
15～19歳		80		5	61				
20～29歳	2	181	1	27	541				
30～39歳		216							
40～49歳		139							
50～59歳		30							
60～69歳		17							
70～79歳		5							
80歳以上									
合計	119	2,511	47	333	3,137	245	29	34	71
先週比	4	463	0	54	29	-22	-6	-3	-24

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	百日咳	風しん	ヘルパン ギーナ	麻しん (成人麻しん を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
～5か月									
～11か月								1	
1歳			5		1			4	1
2歳	1		3		3				
3歳	1				7		1	1	
4歳					8			1	
5歳			1		9			1	
6歳			1		6				
7歳					2				
8歳									
9歳	2							1	1
10～14歳					3		1		
15～19歳							2		
20～29歳	3						2		
30～39歳						1	8		
40～49歳							3		
50～59歳							2		
60～69歳							4		
70～79歳							2		
80歳以上									
合計	7	-	10	-	39	1	25	9	2
先週比	3	0	-3	0	17	0	11	-7	-2

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】2007年51週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田	2	11	2	1	14				1	
中央区		24		2	18		1		3	
みなと	15	34	4	20	116	9	4		2	
新宿区	1	47	1	2	94	4		1	1	1
文京		19			47	4	1			
台東	15	27	2	5	77	4	3		1	
墨田区	5	45		5	55			2	3	
江東区	1	64	1	6	167	16	1	1	3	
品川区	2	95		6	167	8		4	4	
目黒区		10		1	20					
大田区	15	163	7	23	210	15		3	3	
世田谷	9	118	1	13	139	10	1		2	
渋谷区		40	4	2	65	2	2		2	
中野区		104		7	153	8	2		1	
杉並	1	130	1	5	138	10			3	
池袋		41		3	35					
北区		134	1	2	63	14			1	
荒川区		44		8	87	1	4	1	1	
板橋区		47		1	60	4		1	1	
練馬区		141	1	7	79	15			1	4
足立		71	1	53	102	8		4	2	
葛飾区		53		4	69	22		1	4	
江戸川	8	285	5	21	187	8		1	7	
西多摩	2	39	1	7	71	3	3		1	
八王子	10	169	6	24	164	20	1	5	8	
南多摩	13	120	3	15	67	9	2	1	1	2
町田		121		47	251	13		7	6	
多摩立川		51		2	72	3				
多摩府中		127		18	121	15	2	1	4	
多摩小平	20	134	6	21	227	20	2	1	5	
島しょ		3		2	2					

東京都合計	119	2,511	47	333	3,137	245	29	34	71	7
定点当り報告数	0.80	8.78	0.32	2.23	21.05	1.64	0.19	0.23	0.48	0.05

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS	合計
千代田								1	32
中央区				2		1			51
みなと				2				1	207
新宿区						3			155
文京		1		2					74
台東				1					135
墨田区									115
江東区				2		1			263
品川区		2					2		290
目黒区				2					33
大田区		1		3					443
世田谷				5					298
渋谷区		1							118
中野区		1		2		3	1		282
杉並						1			289
池袋				2					81
北区				1					216
荒川区				1		1	1		149
板橋区							1		115
練馬区		1		3		2			254
足立				2	1	3			247
葛飾区				1		1			155
江戸川				3		2			527
西多摩									127
八王子				1			2		410
南多摩									233
町田		1		1		5	2		454
多摩立川									128
多摩府中		2		2					292
多摩小平				1		2			439
島しょ									7

東京都合計	-	10	-	39	1	25	9	2	6,619
定点当り報告数	-	0.07	-	0.26	0.03	0.66	0.06	0.01	

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】 2007年51週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田	0.50	2.20	0.50	0.25	3.50				0.25	
中央区		6.00		0.67	6.00		0.33		1.00	
みなと	2.50	4.25	0.67	3.33	19.33	1.50	0.67		0.33	
新宿区	0.20	5.88	0.20	0.40	18.80	0.80		0.20	0.20	0.20
文京		3.80			15.67	1.33	0.33			
台東	5.00	6.75	0.67	1.67	25.67	1.33	1.00		0.33	
墨田区	1.67	7.50		1.67	18.33			0.67	1.00	
江東区	0.25	7.11	0.25	1.50	41.75	4.00	0.25	0.25	0.75	
品川区	0.33	9.50		1.00	27.83	1.33		0.67	0.67	
目黒区		1.67		0.33	6.67					
大田区	1.67	10.19	0.78	2.56	23.33	1.67		0.33	0.33	
世田谷	1.13	7.38	0.13	1.63	17.38	1.25	0.13		0.25	
渋谷区		6.67	1.00	0.50	16.25	0.50	0.50		0.50	
中野区		11.56		1.17	25.50	1.33	0.33		0.17	
杉並	0.17	10.83	0.17	0.83	23.00	1.67			0.50	
池袋		5.13		0.60	7.00					
北区		22.33	0.25	0.50	15.75	3.50			0.25	
荒川区		11.00		4.00	43.50	0.50	2.00	0.50	0.50	
板橋区		3.92		0.17	10.00	0.67		0.17	0.17	
練馬区		11.75	0.20	1.40	15.80	3.00			0.20	0.80
足立		5.92	0.20	10.60	20.40	1.60		0.80	0.40	
葛飾区		5.89		1.00	17.25	5.50		0.25	1.00	
江戸川	1.60	23.75	1.00	4.20	37.40	1.60		0.20	1.40	
西多摩	0.40	4.33	0.20	1.40	14.20	0.60	0.60		0.20	
八王子	2.50	16.90	1.50	6.00	41.00	5.00	0.25	1.25	2.00	
南多摩	3.25	13.33	0.75	3.75	16.75	2.25	0.50	0.25	0.25	0.50
町田		13.44		11.75	62.75	3.25		1.75	1.50	
多摩立川		3.92		0.33	12.00	0.50				
多摩府中		6.05		1.80	12.10	1.50	0.20	0.10	0.40	
多摩小平	3.33	9.57	1.00	3.50	37.83	3.33	0.33	0.17	0.83	
島しょ		1.50		2.00	2.00					

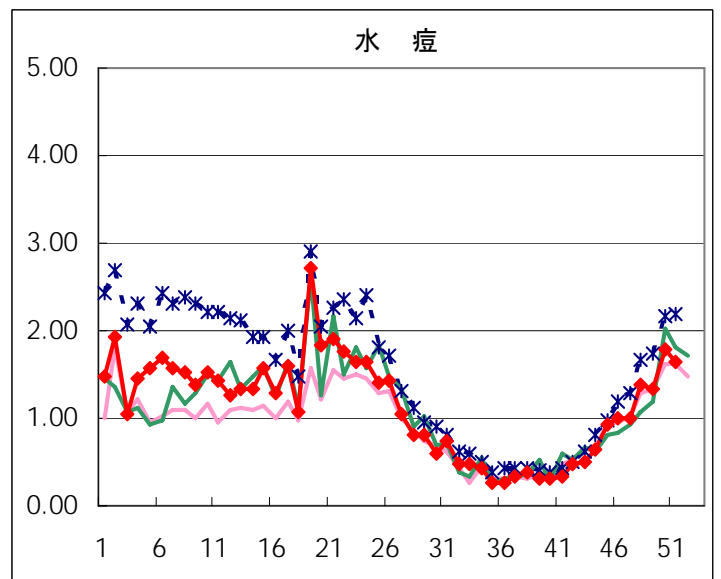
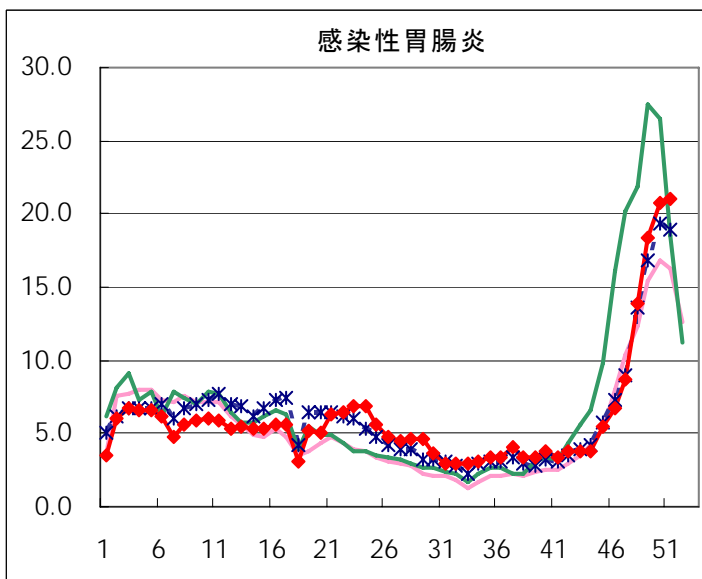
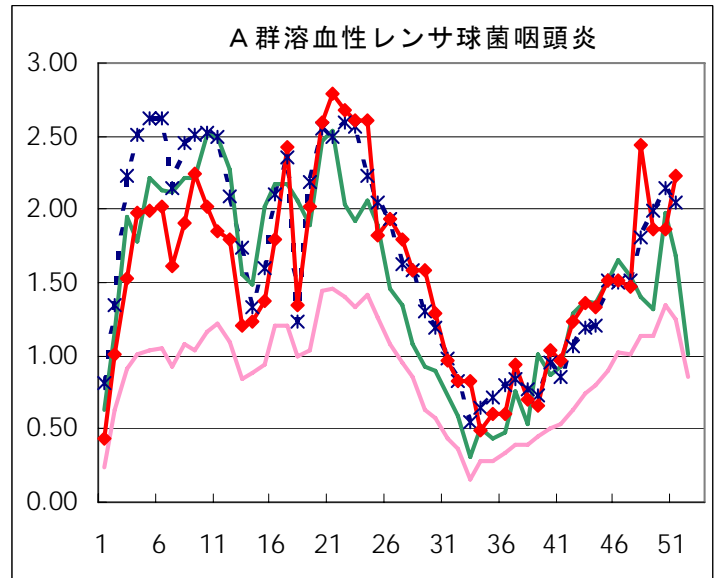
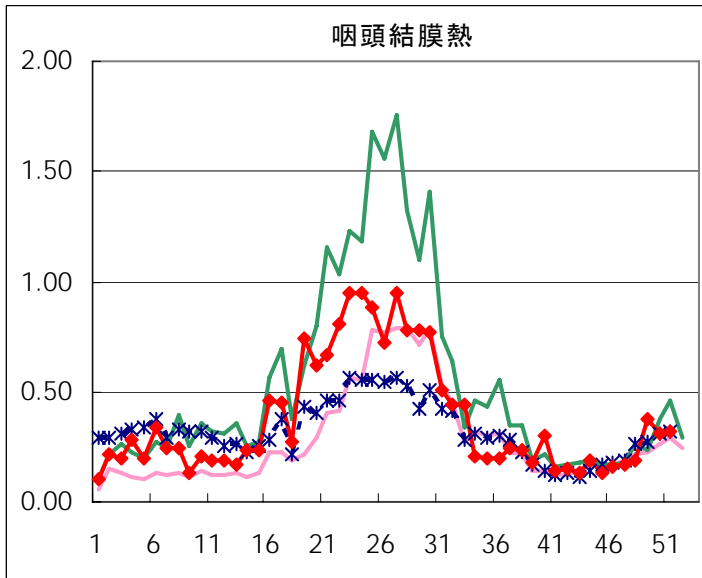
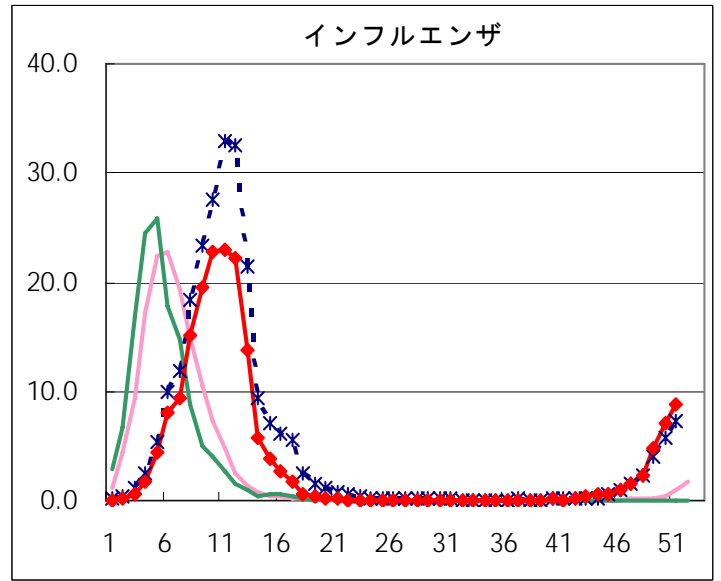
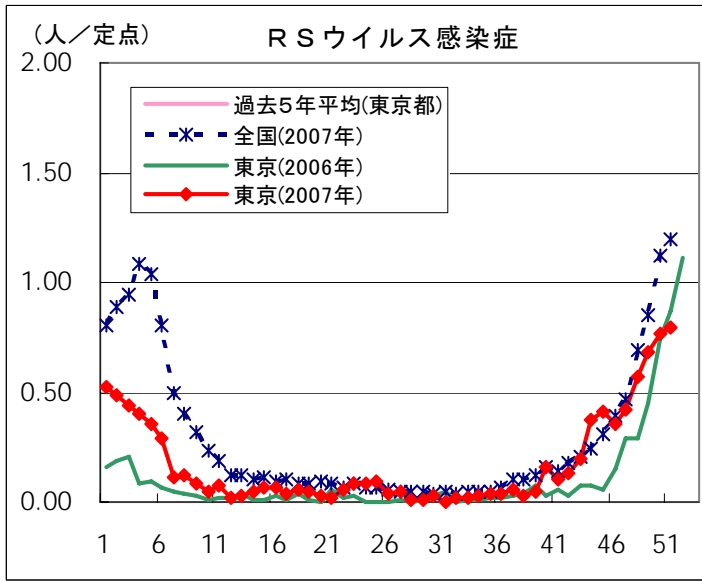
東京都合計	119	2,511	47	333	3,137	245	29	34	71	7
定点当り報告数	0.80	8.78	0.32	2.23	21.05	1.64	0.19	0.23	0.48	0.05

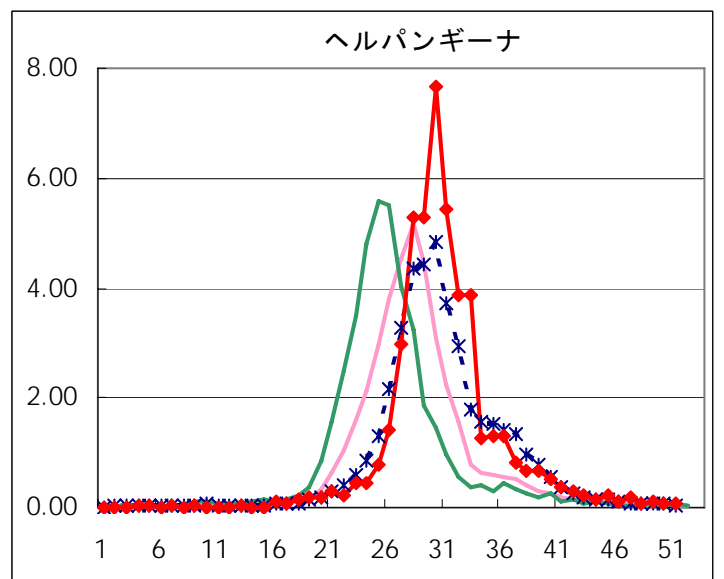
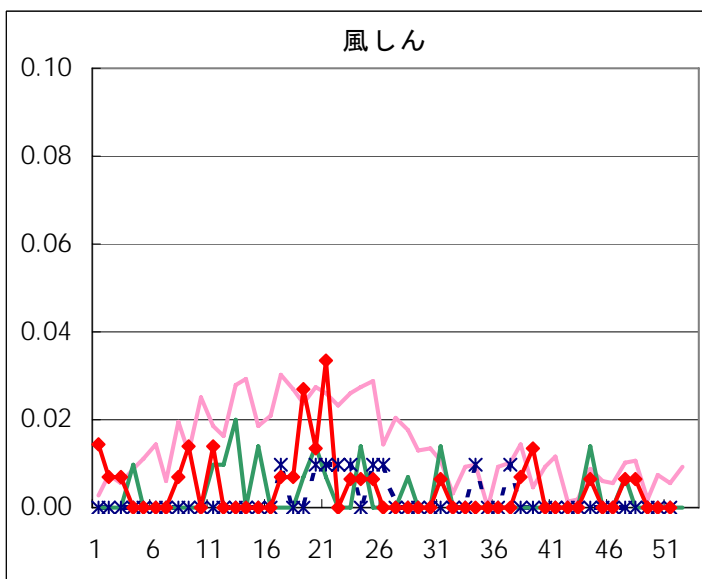
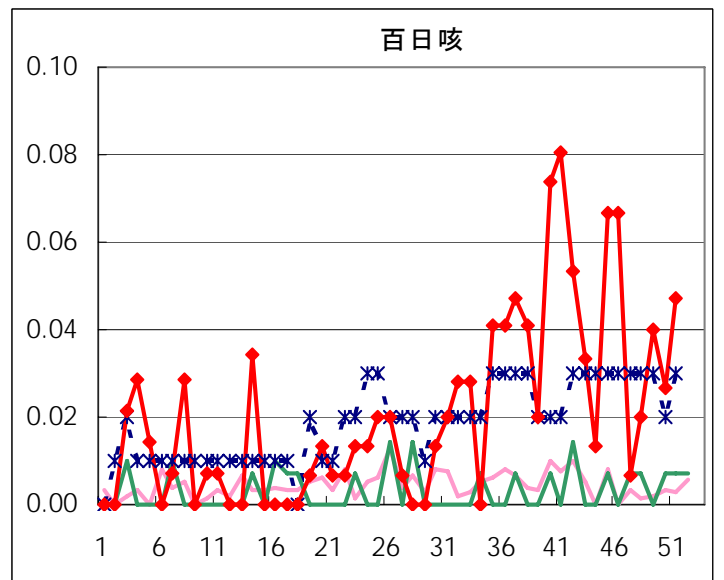
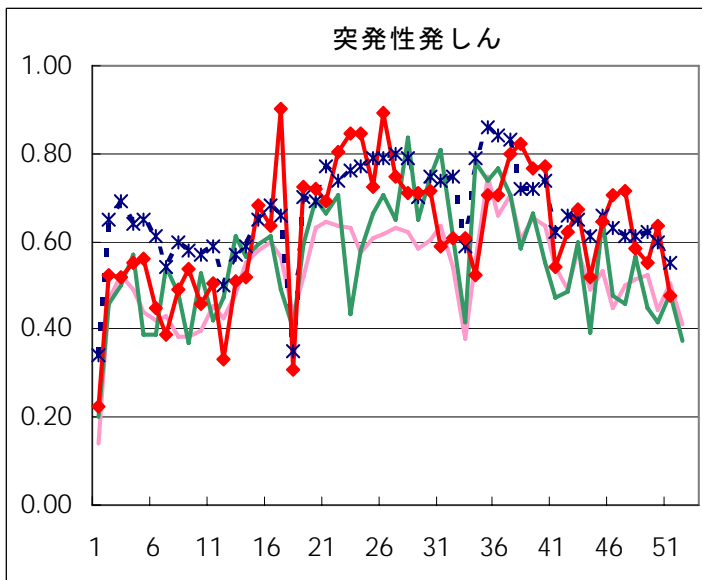
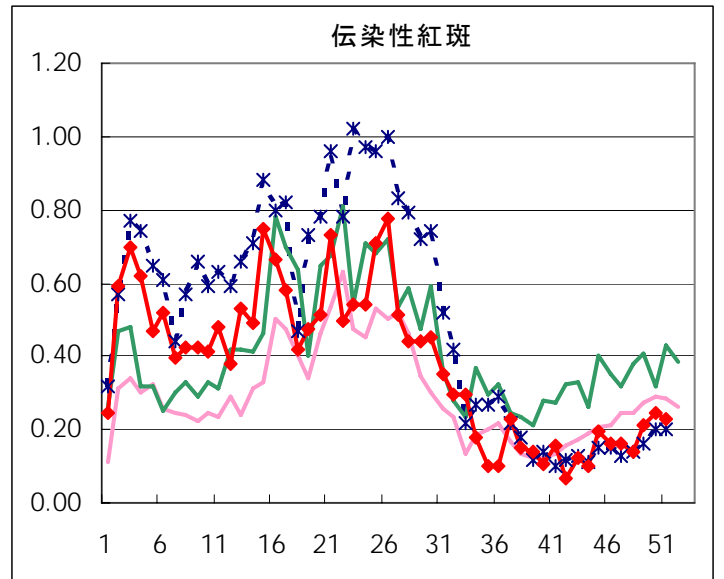
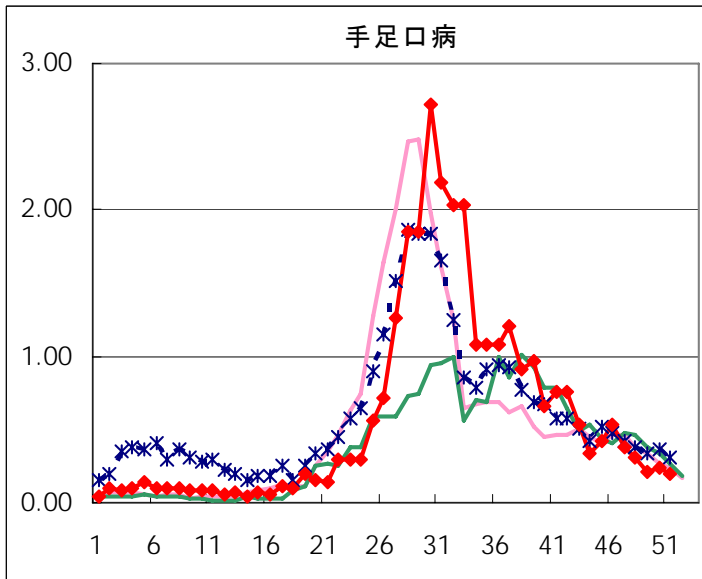
	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
千代田								0.25
中央区				0.67		1.00		
みなと				0.33				0.17
新宿区						1.50		
文京		0.33		0.67				
台東				0.33				
墨田区								
江東区				0.50		1.00		
品川区		0.33					0.33	
目黒区				0.67				
大田区		0.11		0.33				
世田谷				0.63				
渋谷区		0.25						
中野区		0.17		0.33		3.00	0.17	
杉並						1.00		
池袋				0.40				
北区				0.25				
荒川区				0.50		1.00	0.50	
板橋区							0.17	
練馬区		0.20		0.60		1.00		
足立				0.40	0.50	1.50		
葛飾区				0.25		1.00		
江戸川				0.60		1.00		
西多摩								
八王子				0.25			0.50	
南多摩								
町田		0.25		0.25		5.00	0.50	
多摩立川								
多摩府中		0.20		0.20				
多摩小平				0.17		1.00		
島しょ								

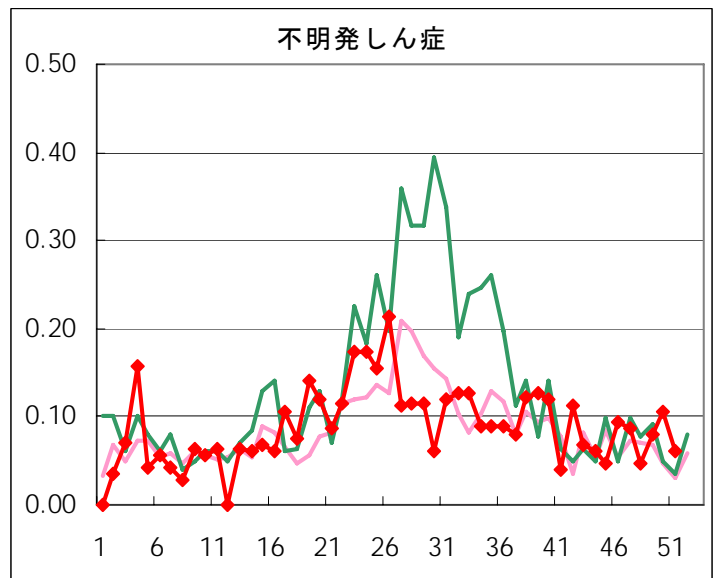
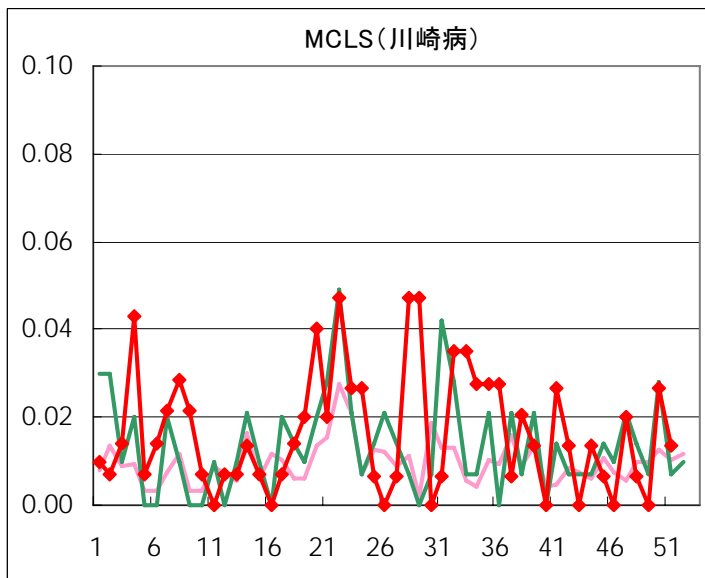
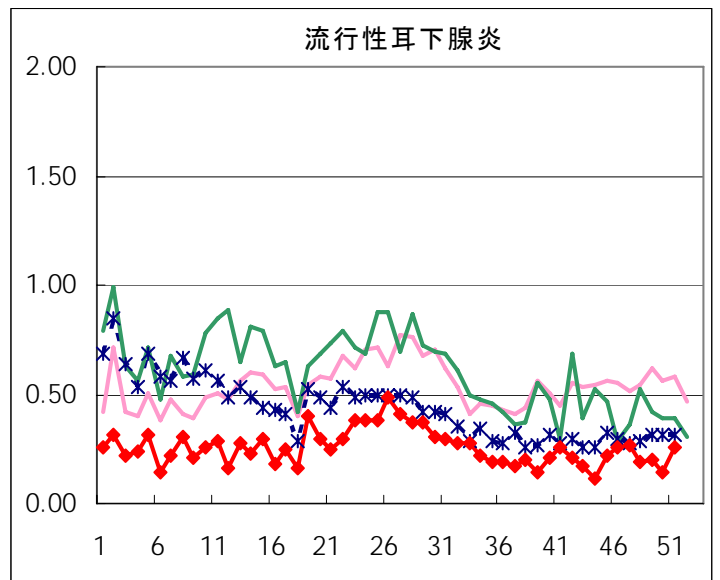
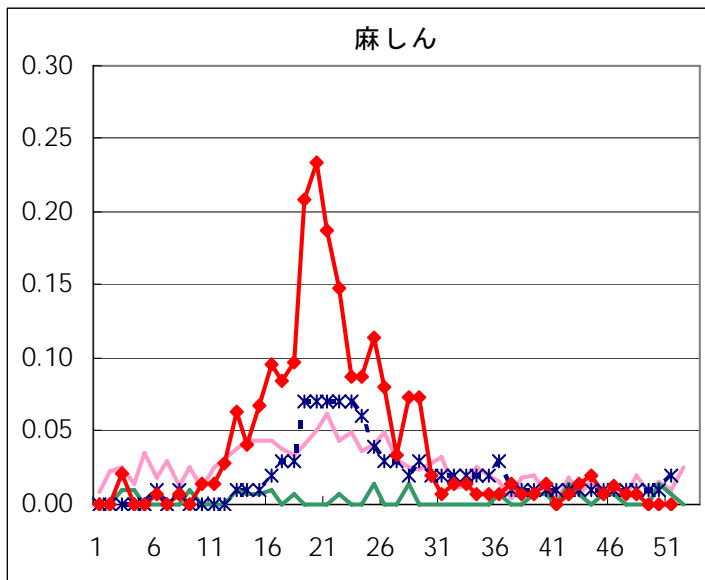
東京都合計	-	10	-	39	1	25	9	2
定点当り報告数	-	0.07	-	0.26	0.03	0.66	0.06	0.01

五類定点把握対象疾患 患者報告数【推移グラフ】 2007年51週現在

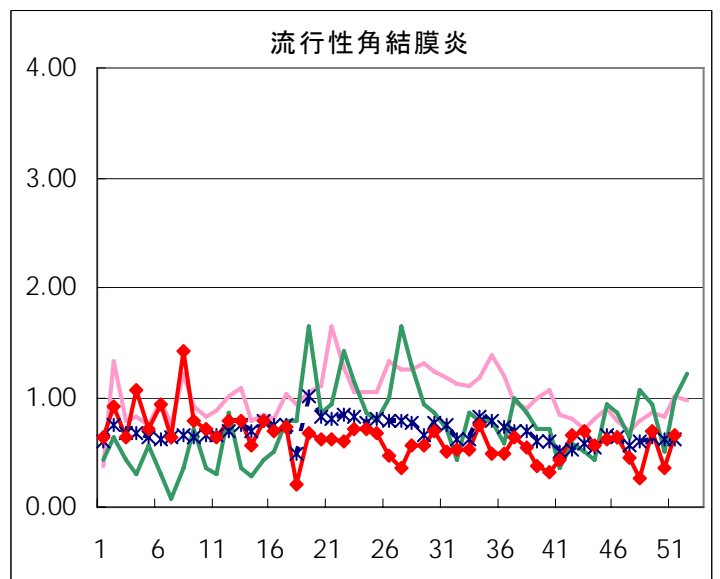
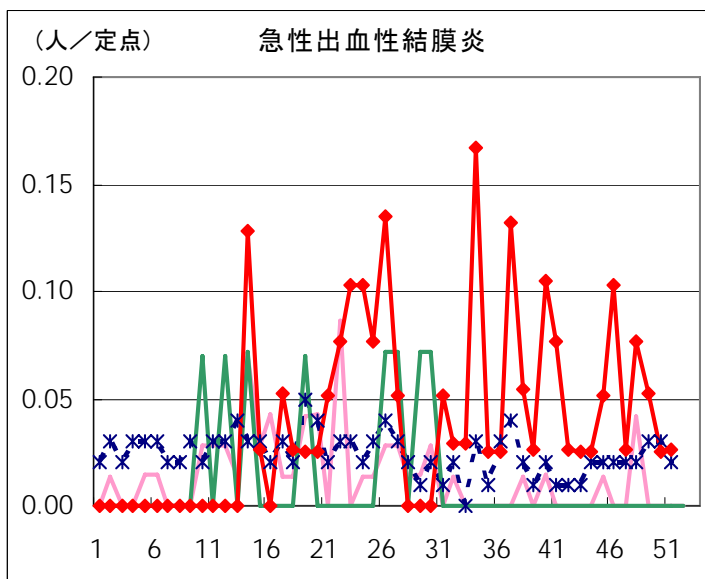
◆ 小児科・インフルエンザ定点



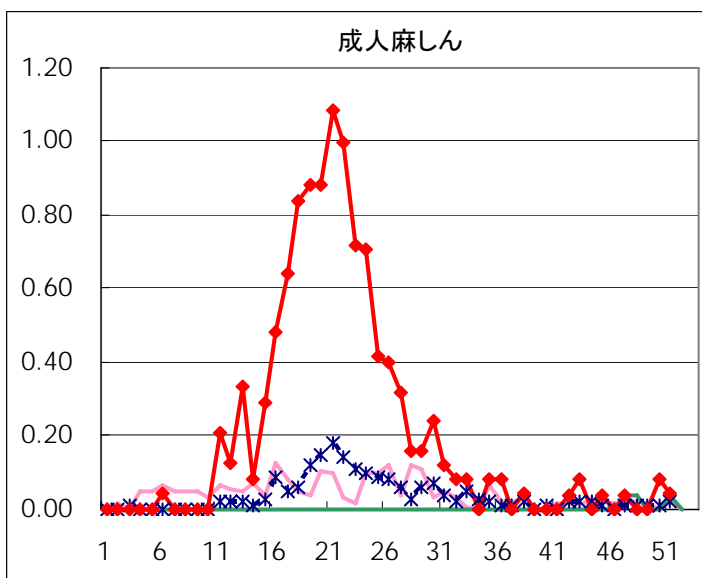
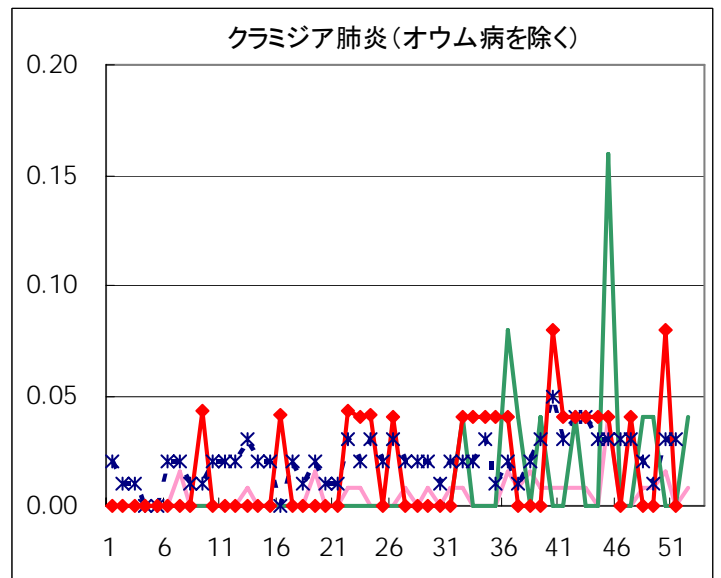
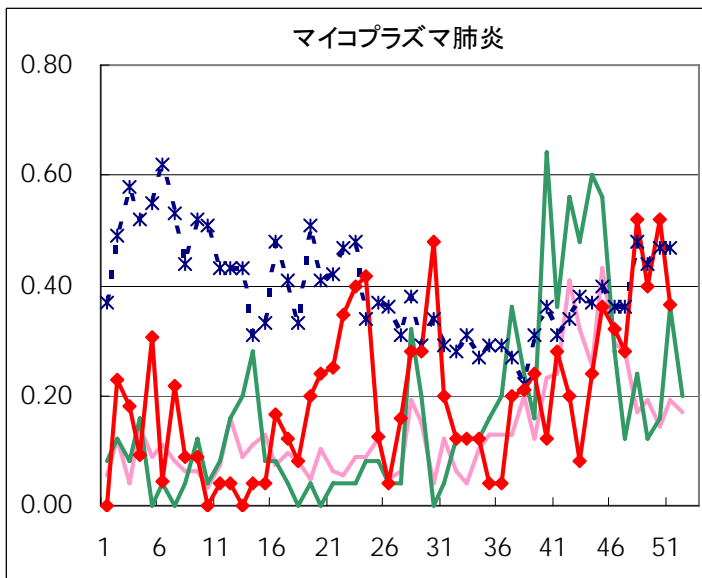
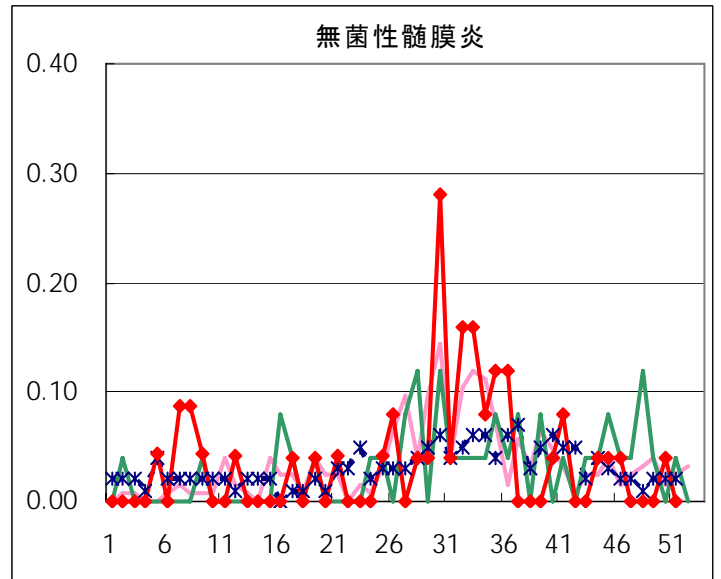
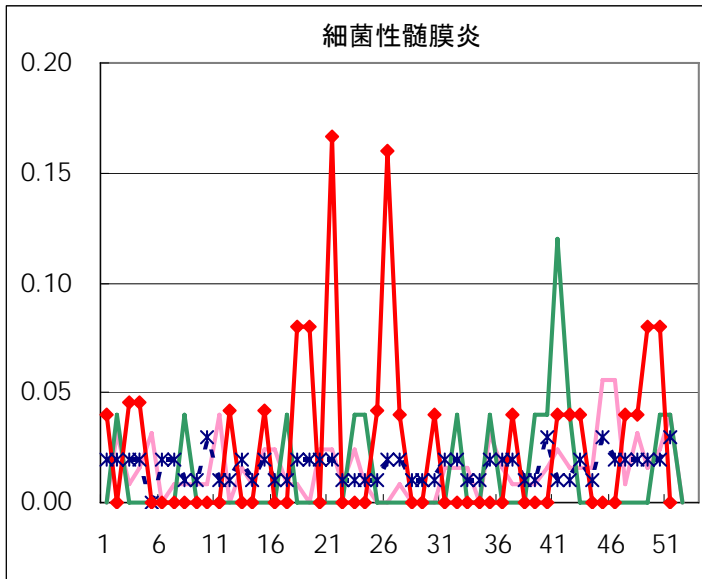




◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



疾患別の定点医療機関数(週単位報告分)			
定点種別	疾患	定点医療機関数	報告医療機関数
インフルエンザ	インフルエンザ	290	286
眼科	急性出血性結膜炎	39	38
	流行性角結膜炎		
基幹	細菌性髄膜炎	25	22
	無菌性髄膜炎		
	マイコプラズマ肺炎		
	クラミジア肺炎		
	成人麻疹		
小児科	上記を除く疾病	150	149

週別検査状況 2007年43週～50週

検出病原体・抗体		2007年								合計
		43	44	45	46	47	48	49	50	
ウイルス	アデノ	2	8	4	3	2	19	16	20	74
	ライノ	1	1			1			5	8
	ポリオ									
	コクサッキーA群									
	コクサッキーB群									
	エコー									
	エンテロ71									
	その他のエンテロ	4	9	8	4	6	10	6	4	51
	単純ヘルペス						3	2		5
	水痘・帯状疱疹			1						1
	ヘルペス6/7		3		1		6	5	2	17
	EB	1	2				2	1		6
	サイトメガロ	3		1	1		1	2		8
	ムンプス				1		1			2
	麻疹									
	風疹									
	パルボB19					1				1
	RS	2	1	4	3	5	2	6	13	36
	ノロ		1	7	1	2	15	18	9	53
	ロタ			1	1					2
インフルエンザAH1		2		2	6	3	10	5	28	
インフルエンザAH3										
インフルエンザB							1		1	
デング		1							1	
その他のウイルス										
細菌	カンピロバクター		1							1
	サルモネラ									
	腸管出血性大腸菌									
	その他の腸管系病原菌									
	溶血性レンサ球菌									
	その他の細菌	1			1			1	1	4
その他の病原体										

臨床診断名別検査結果 2007年43週～50週

臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ヘ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	合 計
搬入検体数	72	44	65	92	30	1		6		1	1	12	5		1		105	
アデノ	7	23	17	14		1		1		1	1	1	1				7	74
ライノ	2	3	2	1														8
ポリオ																		
コクサッキーA群																		
コクサッキーB群																		
エコー																		
エンテロ71																		
その他のエンテロ	2	10	12	14	1					1		5	1				5	51
単純ヘルペス				1	3												1	5
水痘・帯状疱疹					1													1
ヘルペス6/7			2		1							2			1		11	17
EB													1				5	6
サイトメガロ			4	1													3	8
ムンプス													2					2
麻しん																		
風しん																		
パルボB19											1							1
RS		4	32															36
ノロ				51													2	53
ロタ				2														2
インフルエンザAH1	23	1	4															28
インフルエンザAH3																		
インフルエンザB	1																	1
デング																	1	1
その他のウイルス																		
カンピロバクター				1														1
サルモネラ																		
腸管出血性大腸菌																		
その他の腸管系病原菌																		
溶血性レンサ球菌																		
その他の細菌	2		2															4
その他の病原体																		
備考																		

病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
12/4	感染性胃腸炎	3	糞便	ノロウイルス	遺伝子
12/4	感染性胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス アデノウイルス	
12/5	無菌性髄膜炎	7	髄液	エンテロウイルス	
12/6	RSウイルス感染症 細気管支炎	1M	咽頭拭い液	アデノウイルス RSウイルス	
12/6	熱性けいれん 記載無し	1	糞便	エンテロウイルス	
			血液	ヒトヘルペスウイルス6型	
12/7	肺炎	3	咽頭拭い液	RSウイルス	
12/7	感染性胃腸炎	7M	糞便	ノロウイルス エンテロウイルス	
12/8	川崎病 アデノウイルス感染	4	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/8	気管支肺炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス RSウイルス	
12/8	インフルエンザ	記載無し	咽頭拭い液	アデノウイルス マイコプラズマ・ニューモニア	
12/8	インフルエンザ	8	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型 アデノウイルス	
12/8	胃腸炎	1	咽頭拭い液	ノロウイルス アデノウイルス ライノウイルス	
12/8	腸炎	1	糞便	ノロウイルス エンテロウイルス	
12/10	肺炎	10M	咽頭拭い液	RSウイルス	
12/10	嘔吐 下痢 けいれん	1	直腸拭い液	アデノウイルス	
12/10	急性扁桃炎	2	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/10	急性咽頭炎	2	咽頭拭い液	アデノウイルス RSウイルス	
12/10	急性気管支炎	3	咽頭拭い液	アデノウイルス RSウイルス	
12/10	急性咽頭炎 気管支炎	4	咽頭拭い液	アデノウイルス RSウイルス	
12/10	インフルエンザ	6	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
12/10	胃腸炎	2	糞便	ノロウイルス	
12/10	感染性胃腸炎	29	糞便	ノロウイルス	
12/10	髄膜炎	10M	髄液	ヒトヘルペスウイルス6型	
12/11	急性咽頭炎 気管支炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス	
12/11	急性上気道炎	4	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/11	急性返答炎 リンパ節炎	7	咽頭拭い液	アデノウイルス ライノウイルス	
12/11	感染性胃腸炎	90	糞便	ノロウイルス	
12/11	急性咽頭炎	2	咽頭拭い液	ライノウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
12/12	急性気管支炎 扁桃炎	3	咽頭拭い液	ライノウイルス RSウイルス	遺伝子
12/13	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス	
12/13	急性気管支炎	3	咽頭拭い液	RSウイルス	
12/13	流行性耳下腺炎	9	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/13	急性上気道炎	4	咽頭拭い液	アデノウイルス RSウイルス	
12/13	急性上気道炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス RSウイルス	
12/13	急性咽頭炎	3	咽頭拭い液	アデノウイルス ライノウイルス	
12/13	インフルエンザ	2	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
12/13	インフルエンザ	10	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型 アデノウイルス	
12/13	インフルエンザ	39	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型 アデノウイルス	
12/13	ロタウイルス感染症	35	糞便	ノロウイルス	

定点医療機関からのコメント

◇インフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関から報告のあった患者に関するコメント
	A	B	
みなと	11		
	6		
	7		
新宿区	7		
	10		
墨田区	2		
品川区	11		
目黒区			A型インフルエンザが成人発症のパターンになってきた。
	1		
大田区	6	2	B型1名は2歳男児
	4		
	11	1	
	8		
	2		
	11		
	19		
4			

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関から報告のあった患者に関するコメント
	A	B	
世田谷	10	1	B型1名は11歳女兒
	12		
	1		
	4		
	7		
中野区	17		他にA型、B型とも陽性の者1名あり。
	7		
	29	1	
	1		
池袋	2		
	3		
	8		
北区	37		
	3		
	22		
板橋区	6		
練馬区	14		
足立	7		
	9		
	5		
西多摩	2		
	5		
	4		
多摩立川	2		患者12名のうち11歳2名と7歳1名は予防接種済
	1		
	7		
	12		
多摩府中	3		
	1		
	11		
	5		
多摩小平	22	1	集団発生がポツポツ見られるようになりました。38℃以下のインフルエンザも見られます。ワクチン無効例も散見されます。
	25		
	1		
	11		
	4		
	2		
八王子市	21		B型1名は6歳女兒。 その他検査未実施の者1名(兄弟が既にインフルエンザの診断を受けているため)。
	17	1	
	5		
	6		
	67		

<感染症豆知識>

超多剤耐性結核

米国衛生当局から渡航禁止されていた超多剤耐性結核(Extended drug resistant tuberculosis XDR-TB)疑いの弁護士が、海外新婚旅行にでかけ帰国後拘束され隔離入院となった事件があった。全米のマスコミがこの病院を取り囲んで、ビデオカメラの放列がずらりと並ぶ異様な光景が日本でも報道された。XDR-TBは、INH+RFP耐性(=多剤耐性結核 MDR-TB)にくわえ、SMを除くアミノグリコシド系薬剤(KM や EVM)とフルオロキノロンにも耐性を獲得した結核菌による感染症を指す。15~49歳のHIV感染率が21.5%(2004年)というHIV高蔓延国の南アフリカの農村で結核患者の調査をしたところ、544人の結核菌陽性患者のうち53人がXDR-TBに相当し、その51%は過去に結核治療歴がなくXDR-TB患者から直接感染を受けた患者だったとの報告が医療関係者の注目を集めた。このXDR-TB患者の多くはHIV陽性者で53人中52人が短期間に死亡していた。日本のマスコミは、新種の耐性結核菌が登場したように報道したが、実際には本邦のMDR-TB患者の30%はXDR-TBに相当する高度耐性結核菌を有している。しかしHIV陰性なので、南アフリカのケースのような急激な経過は辿らないが、未使用薬剤の残っているMDR-TBに行う外科療法が困難なことが多く、排菌が停止せず長期の隔離入院になることが珍しくない。RFP登場後40年に渡る抗結核薬の開発停止が耐性結核問題の根底にあったが、現在複数の有望な新規抗結核薬が開発の途上にある。ところで、くだんの弁護士アンドリュー氏は結局XDR-TBではなく治療可能なMDR-TBだったそうだが、犯罪者並みに氏名・写真が公開され大変なお灸を据えられた。

文責:結核予防会複十字病院 尾形英雄